

3 ヘキサチューブによる省力造林試験（第3報）

予算区分：県 単
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 11～15 年度
担当者名：小谷 二郎

．目的

近年、下刈り等の保育作業の省力化が叫ばれている。また、造林木に対するノウサギ等の野生哺乳類の被害も目立っている。その影響もあってか、造林木を被覆するチューブに対する関心が高まっている。そこで、ヘキサチューブによる造林木への影響や効果について試験する。

．試験内容

- (1) 豪雪地帯での効果試験 - 白峰村下田原県有林内
試験木：ミズナラ（現在 3 年生）
- (2) アテ・スギに対する効果試験 - 輪島市町野町金蔵地内
試験木：スギ実生，アテ空中取り木苗（いずれも現在 3 年生）

．試験結果

- (1) 豪雪地帯での効果試験

ヘキサチューブを設置したミズナラの樹高は 135.1cm で，設置していないミズナラ（106.8cm）よりも 28.3cm 上回った。ただし，チューブは雪解け時にすべて倒伏していた。また，設置した 25 本うち，10 本はなんらかの原因で枯死した。

- (2) スギ・アテに対する効果試験

ヘキサチューブを設置したスギの樹高は 162.5cm で，設置していないスギ（107.0cm）よりも 55.5cm 上回った。また，アテでは設置したものが 88.0cm で，設置していないアテ（48.1cm）よりも 39.9cm 上回った。ただし，チューブ内のアテは葉の先端部分での成長を測定しているため，正確な成長の比較は出来なかった。また，アテでは設置した 8 本のうち 3 本がなんらかの原因によって枯死した。

．今後の問題点

ミズナラのチューブ設置区では，豪雪地帯であるため，雪による沈降被害が著しく，雪解け時にチューブを立て直す必要があった。また，アテではチューブ設置によって芯が伸びずに，葉先が伸びる現象が確認された。スギに対しては，現在のところ大きな問題はないと思われる。